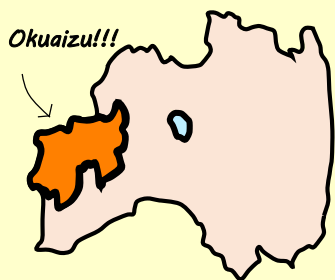
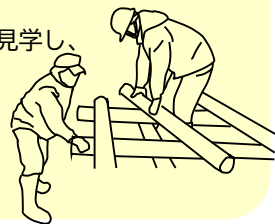


奥会津インフラツーリズムとは？



奥会津の橋やダムなどの土木インフラに着目し、観光資源として活用する取り組みのこと。柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町の5町村が対象地域です。

インフラツーリズムでは普段入ることのできない施設内部を見学し、非日常感を楽しみながら防災や治水システムを学べます。その土地ならではの体験や文化、食、絶景を掛け合わせたインフラツーリズムの定着を目指しています。



工事中 供用中 体験型
インフラを3分類

3

奥会津インフラツーリズムの定着化に向け、令和2年度に取り組みを開始しました。

インフラツーリズムといえば一般的に供用中の施設を活用した観光です。しかし、奥会津には既存の施設以外にもさまざまなインフラがあります。他にはない多様な楽しみ方を創出するため、インフラを3つのカテゴリーに分類してみました。

①工事中

まさに今現在、工事をしている現場。作業は常に進むため、見る度に状況が異なります。

例・博士トンネルなど

②供用中

既に出来上がり、私たちの暮らしを支えています。

例・田子倉ダム、
瑞光寺橋など

③体験型

実際に体験できるインフラ施設。

例・道普請体験(歩く
県道)、奥会津シ
ンフォニーロード

観光のプロが現地調査 魅力度を分析

各インフラの受入体制や観光資源としての魅力度を確かめるため、観光事業者による現地調査を実施しました。

対象は宮下ダムや本名ダム、第二沼沢発電所などインフラ施設10カ所、道普請の体験プログラム、福満虚空蔵菩薩圓蔵寺や霧幻峡の渡しといった周辺観光施設14カ所、そして宿泊施設の3カ所。それぞれテーマ性やストーリー性、インパクトがどの程度あるかなどを調べました。

高いポテンシャルあり 可能性は未知数

調査の結果、**宮下ダム、上田ダム、第二沼沢発電所、田子倉ダム、本名ダム、道普請体験**の6つが高く評価されました。

このうち、本名ダムは「非常に高いポテンシャルを秘めている」「建屋に上るワクワク・ドキドキ感が大きい」といった評価をいただきました。宮下ダムに対しては「ダムと発電所が分離しており、違った角度から見た景観がそれぞれ素晴らしい」「監査廊の見学はインパクトがある」といったあまり知られていない魅力が挙げられました。



- ①宮下ダム 周辺観光施設との組み合わせが鍵
 - ②上田ダム 歴史や地域との関わりを学ぶ場にも
 - ③第二沼沢発電所 発電所入口はトンネルの中。まるで秘密基地
 - ④田子倉ダム 山々の中に現れる巨大構造物
 - ⑤本名ダム 絶景×人工物のコントラストが目を引く
 - ⑥道普請体験 今回の調査で目玉観光を発掘!!
- 観光ポテンシャルが非常に高い
歴史感じる体験コンテンツ、圧倒的な充実感

見事な8連アーチ！



細越橋梁

所在地：金山町（JR只見線早戸駅から徒歩約15分）

昭和14年竣工。地元の方から「めがね橋」の愛称で親しまれているコンクリートのアーチ橋です。国道252号沿いにあり、撮影スポットとなっています。令和3年9月17日に選定土木遺産に認定された「只見線鉄道施設群」の1つです。

奥会津
インフラ
メモ②

<1泊2日ツアーちょこっと紹介>

- ①道普請体験 地元の方と交流しながらの作業。沢に橋をかけました
- ②田子倉ダム 監査廊に潜入 ちょっとした探検 夏でも涼しい



一般消費者から見た
奥会津のインフラ

満

では、一般の方々には奥会津のインフラをどのように感じるのでしょうか？一般消費者を対象に令和2年11月、1泊2日と日帰りのモニターツアーを実施しました。

1泊2日のモニターツアーには10名が参加し、道普請体験をはじめ、JR只見線第一橋梁ビュースポット、田子倉ダム、奥会津水力館MIOORIなどを視察し、お食事は地元の食材を使った料理を味わってもらいました。

参加者からは「SNSで発信すれば人気が出るかも」といった意見や、「地元の方との交流がとても楽しかった」「自分が作業したものが残るのはうれしい」との声。さらに、「観光地巡りより体験型の方が記憶に残りやすい」とインフラツーリズムならではの魅力を感じていただけました。

モニターツアー参加者の満足度を高めた要素は大きく3つです。

- ①希少体験（わざわざ来る価値がある）
- ②地元の人たちとの交流
- ③ガイドの分かりやすさ

この要素を軸に、奥会津インフラツーリズムを磨き上げていくこととしました。



参加者の声

五感で満足できるよい1泊2日ツアーだった

インフラを中心にして農工福祉など広く展開が可能だと思う

このツアーがなかったら来ることなかったし、峠のことも全く知らなかったので、いい機会だった

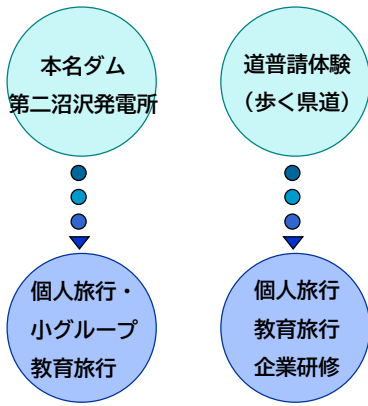
子どもの学習にもいい

一番の発見は「道普請」と「会津銀山街道」。歴史ある街道なのに全国・世界に周知されていない。可能性があるポイントだ

誰がどう楽しむの？
分析してみました

類

観光資源になり得るインフラが奥会津にもあることが分かりましたが、インフラによって楽しみ方はさまざまです。主なインフラコンテンツを誰がどのように楽しめるのかモニターツアーの結果を基に分類してみました。



体験・参加型でチームワークが育める道普請体験は、個人旅行の他に教育旅行や企業研修といったニーズに合致すると考えられます。作業する中で地元の方々と交流でき、社会課題が含まれる点もポイントです。

ダムや発電所は私たちの生活を支えるインフラについて学ぶことができ、こちらでも教育旅行に最適です。



編集後記

私の初めてのインフラ体験は束松峠での道普請でした。ミチブシシ...初めて耳にする言葉。どこで誰が何をやるものなのだろうか。長靴やヘルメット、防寒着など準備を進めていくうちに、「きつい作業なんだろうな」となってきた。当日、現場に到着してみると冷たい雨 冷える体。「早く終わらないかな」。密かにそんなことを思いながら、打ちかすがい（かすがい）を体験してみると、なんだか気持ちいい。ハンマーで打ち付けた鍔が丸太にまっすぐ沈んでいくと気持ちが高まる。「何これめっちゃくちゃ楽しい！」



【ご意見・お問い合わせ】

福島県会津若松建設事務所 企画調査課

MAIL : wakamatsu.ken.kikaku@pref.fukushima.lg.jp

TEL : 0242-29-5455

FAX : 0242-29-5459